

研修員's VOICE

Vol. 23

世界各国からJICA沖縄にやって来た
研修員を紹介しています。

出典：外務省HP



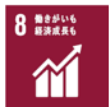
今回の研修に参加
できたこと、日本の文
化を経験できたことに
心から感謝していま
す。親切でフレンド
リーな沖縄のみなさ
ん、ありがとうございました！

氏名：Ms. MANACHO Mary Glenne (グレンさん)

国名：フィリピン共和国

研修期間：2019年2月7日～2019年2月23日

コース名：アグリビジネス/アグリツーリズムコース



持続可能な開発目標 (SDGs) とは、「誰一人取り残さないーNo one will be left behind」を理念として、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針で、17のゴールが設定されています。JICAはSDGsの達成に向けて積極的に取り組み、17のゴールに貢献する研修を実施しています。

フィリピンってどんな国？

東南アジアに位置するフィリピンは、人口約1億人(2015年)、面積約30万km²、7千以上の島で構成される島嶼国です。かつてアメリカの支配下にあったため、英語は公用語の一つで、近年はアジアでの英語留学先としても人気があります。私が住むマ斯巴テ島はフィリピン中央に位置し、農業や漁業、特に牧畜が盛んです。毎年4月に畜産業振興のため行われるロデオフェスティバルは多くの見物客が訪れ、農家の収入増加に一役買っています。ちなみに、私のおすすめのフィリピン料理は、牛の骨付き肉を煮込んだブラロ(Bulalo)です。



ブラロ (Bulalo)



ロデオフェスティバルの様子

今回の研修に参加した目的は？

私はマ斯巴テ市の農業事務所で農業官として、農家への技術指導や有機野菜の栽培デモを行っています。フィリピンの農業人口は全労働人口の3割に上りますが、農家は作物を生産するのみで、自分たちで価格設定ができない、仲買人が多いため農家の利益が上がらない、若い世代が農業に魅力を感じないなど多くの課題があります。同様の課題に取り組んだ沖縄の経験や知識、特に農産物に付加価値を付けて収益を上げる6次産業や地域の資源を利用したアグリツーリズム等を学ぶため、今回の研修に参加しました。



みやぎ農園の農場見学

沖縄での学びと今後の活動

沖縄本島北部では、地域の土壌に合ったアセロラを生産し、加工、販売する、ダムや山林を利用したカヌー体験やナイトツアーを実施する等、自治体と住民が連携し、地域に雇用と収入を生み出すしくみを作っていることが素晴らしいと思いました。

若い世代が農業に挑戦する支援を行政が行う、農産物を適正価格で買い取る組合や生産者が直接農産物を販売するファーマーズマーケットなど、全てが参考になりました。

帰国後は、地元でアグリツーリズムに適する場所や、協力してくれる農家を探すことから活動を開始し、地元の発展に貢献していきたいと思っています。



本部町でアセロラゼリー作りを体験